

環境コミュニケーション大賞（環境報告書部門）
環境報告大賞 採点基準（平成30年度版）

SDGs、パリ協定など、持続可能な社会の形成と気候変動への対応について積極的に経営の戦略として取り組んでいることを明らかにするなど、最も優れた環境報告書。

1) 長期(2030年、2050年)の経営方針・ビジョンに関する目標設定および策定状況について..... MAX 35

① 2030年以降を見据えたリスクと機会を認識しており、それに対応した企業戦略が立案されている..... 5

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

② SDGsを踏まえた方向性を提示している..... 10

「3」	環境課題・社会課題をビジネス的に解決するSDGsコンパスの考え方（アウトサイド・イン）で取り組んでいる、等。
「2」	自社の中長期目標と169ターゲットを対比させて取り組んでいる、等。
「1」	これまでの自社における取組と17ゴールを対比している程度。
「0」	記述なし

③ パリ協定やIPCCレポート、地球温暖化対策計画、気候変動の影響への適応計画を踏まえた方向性を提示している..... 5

「3」	2050年前後からバックキャストした道のりが描かれている。RE100への署名やSBT認証取得、TCFDへの賛同表明を行っている、等。
「2」	2030年までの道のりはあるが、それ以降は無い
「1」	一般論の域を出ない
「0」	記述なし

④ パリ協定やIPCCレポート、地球温暖化対策計画、気候変動の影響への適応計画を踏まえた取組を実施している..... 5

「3」	上記を意識した取組を実施し、中長期の具体的な目標等を記載している。
「2」	上記を意識した取組を実施しているが、具体的な目標についての記載がない。
「1」	今後取組を実施する予定である旨の記載がある。
「0」	記述なし

⑤ 2030年以降を見据えた環境目標が設定されており、環境目標が企業戦略と統合されている..... 5

「3」	事業上のマテリアリティをふまえた環境目標を、多面的に設定して掲げている。
「2」	事業上のマテリアリティをふまえた環境目標を、特定の分野に関してのみ掲げている。
「1」	現在の取り組みの延長線上の域を出ない
「0」	記述なし

⑥ 設定した経営方針・ビジョン・環境目標に対する、経営者コミットメントが明確である..... 5

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

2) 社内カーボン・プライシングの導入 MAX 10

「3」	社内カーボン・プライシング制度を導入しており、企業戦略に積極的に活用している。
「2」	社内カーボン・プライシング制度の導入の具体的な検討を始めている。
「1」	社内カーボン・プライシング制度の方向性について言及がある。
「0」	記述なし

3) ESG 対話 MAX 15

「3」	環境省 情報開示基盤整備事業に参加するなどして、十分な ESG 対話を行っている。
「2」	投資家等と ESG 対話を行っている。
「1」	今後 ESG 対話を行うなど、ESG 対話について言及がある。
「0」	記述なし

4) バリューチェーンにおける非財務情報の開示 MAX 20

① バリューチェーンにおける環境配慮の情報開示を行っている 10

「3」	大変すぐれている
「2」	普通
「1」	劣っている
「0」	記述なし

② CSR 調達 10

「3」	主要調達品の調達先へのデューデリジェンスを実施している
「2」	CSR 調達を行う品目を策定しており、調達の実施についての記載がある
「1」	CSR 調達に関連した取組を始めている
「0」	記述なし

5) 総合評価 MAX 20

上記全体を総合勘案し、かつ独自の創意工夫や先導的な試み等も考慮し、総合評価する。

【特記事項】

- ・昨今のプラスチックに対する世界の動きを踏まえ、プラスチックとの関係の深い業種はご留意願います。すべての業種が関係するわけではないので採点項目には含めませんが、具体的な取組についての記述等がありましたら、総合評価内で何かしらの勘案をしていただくよう、お願いします。

以上